

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「パーフェクトアウト」

テーマ:「上品なお嬢さまなのに、生首だけな美少女」

キャラクター

35

ストーリー

30

テーマ(設定)

55

文章力

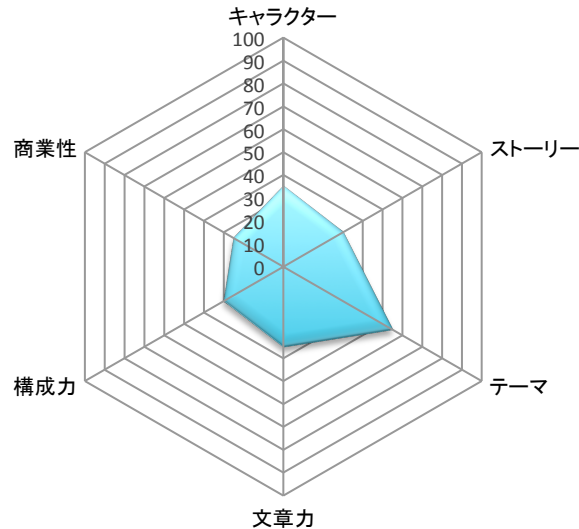
35

構成力

30

商業性

25



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

一言コメント「あんまりぐくくないです。」ー！？
 ・本来理由もなくグロい描写は作品の面白さを減らすだけであるのだが、ここまで徹底して狂気にも似たグロい世界観を描ける力は才能に近い物を感じる。好きな人は好きだが嫌いな人は徹底的に嫌いという作風であると思われるが、今更普通のラノベらしく書いたところという話ではあるので、もういっその路線をきわめて欲しいとは感じた。
 ・はっきり言って夢野久作のドグラマグラの要素が強過ぎるあまり商業的に出すことができないのでこのような指摘となるが、もう少しグロいシーンを増やすべきではないか？ 例えば読み手は確実に「芳野先生に良い印象はもっていないため、芳野先生が横行きとなる際に解体される過程ならびに様子をもっとことこまかに書くことで、グロをもとめている(というよりもグロを求めている人しか恐らく読んでいない)人にとっては、うさぎ人間が処理されるという意味でただのグロシーンよりよっぽど興奮するシーンとはならないか。
 ・強いて言うならば、設定の提示と、一度提示した設定の活用のバランスが悪い(前者が圧倒的)であるため、後者を意識し設定は最低限の提示に抑えることを推奨する。

合計加点ポイント 0

総得点: 210 / 600

B方式総合得点: 7350 点